（公社）日本技術士会中国本部
本部長
大田一夫氏

「外向きの活動に重点を置くことが、技術士の知名度向上や地位向上に最も有効な手法と考えている」と話すのは、今年で創立50周年を迎える（公社）日本技術士会中国本部の大田一夫本部長。8月には広島市内で記念式典を催すこととなっている。

この人

創立50周年

外向きの活動に注力
建設系3部会設置へ

昭和40年に日本技術士会中・四国支部として22名の会員で創立され平成26年12月31日現在では82名（正会員650名、準会員174名）となった。半世紀に及ぶ活動を「主に会員の資質向上と会員相互の交流といった〝内向きの活動〟が中心だった」と振り返るとともに、「目的とする技術士の地位向上には、まだまだ十分な成果が出ていない」と反省。そのため、平成25年7月に中国本部長に就任した際も「〝外向き〟の活動を強化していく」方針を明確に打ち出した。現在は、その一環として『教育支援』や『防災・復興支援』などの社会貢献活動に注力。教育支援は、今年4月から建設部会、応用理学・資源工学部会、上下水道部会の建設系3部会を追加設置することを決めた。「これで20技術部門すべてに対応する」と語り、外向きの活動と同時進行で充実化が図られている。

一方、内向きの活動では、近畿大学工学部や鳥取大学に講師派遣するとともに、広島県安芸太田町の教育委員会とタイアップし、小中学生を対象に理科教室を開催した。防災・復興支援では、防災講演会を催したり、ハザードマップづくりの支援などを行っている。来月3日も広島土砂災害復旧・復興支援活動報告をテーマとした防災講演会を広島市内で開催する予定だ。

建設部会については「他協会と違って、建設コンサルタント、建設業、建設メーカー、官公庁、大学・高専の技術士が幅広く交流できる」ことを特徴にあげ、会員拡大へ大きな期待を寄せている。このほか、CPD行事は、1年間に約200時間を提供した。今後は「技術士の活用について、発注者との意見交換会も実施していきたい」と考えている。